

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ 美術教育をとおして美術造形に対する憧憬を生涯の目標とし、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む — Spread the KONAN-Style —

- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切する生徒を育成する。
- 2 自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
- 3 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

2 中期的目標

1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の養成

- ・ 生徒に自身の学力プロフィールや将来への必要性を客観的に理解させ、実技教科と同様に普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。
 - ・ 1年生は宿泊研修に代わる行事により、学習の大切さに気付かせるとともに学習習慣を身につけさせる指導に取り組む。
 - ・ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通教科においても少人数授業の実施を検討し、ICT機器の利用を一層推進する。
 - ・ 学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
 - ・ 国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
 - ・ 読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
 - ・ 日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感をとおして幅広い教養を身につけさせる。
 - ・ 造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ねてコミュニケーション能力と言語表現力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を実践させる機会を積極的に設ける。
- ※ 生徒による授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に、興味・関心をもつことができたか」について、肯定的回答平成27年度80%を目標とする。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成については、卒業時にはすべての領域の生徒がボードや映像を活用してプレゼンテーションを行えるICT機器の活用力を身につけさせ、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。

2 将来展望がもてる進路指導の実現

- ・ 生涯にわたる美術造形とのかかわり方や広い視座による将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
 - ・ 早期からガイダンスを計画的に実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行う。
 - ・ 国公立大学(美術系等)や難関私立美大進学を実現につなげる進路指導體制を整備する。
 - ・ 進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度、役立った進路情報等に関するアンケート調査を実施する。
 - ・ 卒業生の大学入学後の状況を調査し、社会とのつながり、接続等を研究し、進路指導等に活用する方策を検討する。
 - ・ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめる。
- ※ 美術系大学等への進学者の入学後状況の調査・研究を、大学等への進学後に退学することのない進路指導(手法・内容)において平成27年にも活用する。
- ※ 卒業時の進路アンケートで進路希望達成・満足度を調査し、平成26年度に近い水準(満足度93.8%)を維持する。
- ※ 改善を重ねてきた部活動加入者数(延べ700名)や高校展への出品者数(延べ300名)が減少しないよう取組みを継続し、現在の水準を維持する。

3 美術造形教育センター校としての役割

- ・ 大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を実施する。
 - ・ 校外における生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HPの充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
 - ・ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
 - ・ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実、海外研修旅行の実施に取り組む。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、100名以上の水準を維持・発展させる。
- ※ 海外研修旅行を実施するとともに、参加者による報告・発表活動を積極的に開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全20項目中で、H26年度に比して、生徒14項目、保護者で11項目が上回った。また、生徒、保護者とも肯定的回答が70%に達しないのは国際理解に関する1項目だけであり、全体的に高い評価を受けていると思われる。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に対する生徒の肯定的な回答は「授業がわかりやすい」が5%向上し86%、「考えをまとめたり発表する機会」が7%向上し75%となるなど、ほぼ全項目で改善が見られた。保護者の肯定的回答も「授業がわかりやすく楽しい」といっている」が7%向上し79%となっている。 <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災避難訓練を2回実施し、火災のみならず津波避難の訓練も行った。そのため、生徒の肯定的な回答は4%向上し79%となり、保護者の肯定的回答も71%となっている。 ・ 保護者の「授業参観や学校行事に参加」の肯定的回答が75%、「学校の教育情報提供の努力」が79%と、少しずつ向上しており、保護者との連携が進んでいると思われる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際理解に関する項目では、生徒は13%向上し66%、保護者は17%向上の66%となった。例年行ってきたイタリア研修をテロの影響で中止したが、むしろそのことが国際情勢を学ぶ機会となったと考えられる。しかし、依然として他の項目に比して低い数値となっている。 	<p>【第1回】6月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新1年生全員に対して4月中旬に美術館で芸術鑑賞行事を始めたことや、3年生の課題研究授業を4単位から6単位に増やしたことなど改革は見られる。しかし、志願者が減っていることについては、校内の改革に加えて、中学校の美術教員への広報なども必要ではないか。 <p>【第2回】10月29日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータを使った授業については、機材維持に費用がかかることや、SNS上のモラルの問題などがあるが、今は小学校からタブレット端末を一人一台渡されて調べ学習をする時代である。今後はICTが大きなツールになっていくと思われる。 <p>【第3回】1月27日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断では、ほとんどの項目で数値が上昇している。教員に対する評価も高く素晴らしい。 ・ 「平成27年度学校経営計画及び学校評価」「平成28年度学校経営計画及び学校評価」の海外研修については、今回の海外研修中止は英断であったと思うが、海外の文化に触れる機会は大きな成長を促すことから、今後も諦めずにチャンスを作っていくと欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的 活動の 源泉と なる基 礎学力 と言語 表現力 の育成	(1) 基礎学力・言語表現力の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 読書活動の充実 ウ 言語表現力の育成 エ 知的好奇心の育成	ア 学力診断テストを年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を認識させるとともに、造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であることに気付かせる。 イ 調べ学習を積極的に採り入れるとともに、創作活動には読書や鑑賞が重要であることを理解させ身につけさせるため、授業における図書館利用やICT機器の活用を促進する。 ウ 技量としての表現力に加え、自らの美意識や制作意図を伝えるために言語表現力を向上させるため、合評やプレゼンテーションの授業時数を確保する。 エ 日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化遺産に対する興味を喚起し、幅広い教養を身につけさせるために知的好奇心を育成する。	ア・学力診断テスト結果 第1回(5月)と第2回(9月)の学習到達度ゾーンの比較を活用する。 (上位ゾーン10%向上 *H26は44%向上) イ・授業の図書館利用やICT機器利用を増やす。 (H26年度比利用率5%増加) ウ・学力診断テストにおける国語で重点的に測定。 (下位ゾーン10%減少 *H26は45%減少) エ・外部講師による講座実施回数。(6回程度) ・海外研修旅行の実施 (研修旅行参加者25名) (報告会参加者70名以上 *H26は82名)	ア・学力診断テストによる測定結果 4月に比して8月では上位ゾーンの生徒が35.5%増加し、基礎学力の着実な向上が見られた。(◎) イ・授業での図書館利用やICT機器の活用が促進され、調べ学習が授業により多く取り入れられるようになった。 図書館利用 10%増加 ICT利用 11%増加 (○) ウ・重点的に指標としている学力診断テストによる国語の下位ゾーン人数について、4月に比して8月では47.8%減少した。(◎) エ・伝統文化や伝統工芸などの外部講師による講座を10回実施し、生徒の興味喚起を促進した。(◎) ・海外研修はフランスでのテロの影響で中止となったが、海外研修に関わる調べ学習や事前学習を行い、冊子にまとめさせた。(○)
2 将来 の職業 が持つ る進路 指導の 実現	(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける ア 高一・大・専連携講座や講演を充実 イ 進学希望者講習の充実 ウ 卒業後の状況調査を実施。 在校生には高校から大学等、社会にいたるつながりを考えさせる。 エ 希望した進路が実現できたかを調査をする	ア 大学・専門学校から講師を招いて行う講演会は、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」というテーマに基づいて実施する。 イ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施し、年間をとおして受講者の定着を図る。 ウ 卒業後3年後のアンケート調査を実施。卒業生による交流会や講演会を実施する。 エ 卒業時に自分の進路目標が達成できたのかを調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。また、今後の進路指導計画策定の資料として活用する。	ア・講座参加生徒数 (250名以上) *H25/250名 H26/471名 イ・国、社、理、英の通年受講者数 (15名以上) ウ・アンケート回収率 (30%程度) ・卒業生による交流会や講演会開催 エ・希望進路達成率 (75%以上)継続	ア・大学や専門学校の講師による講座は、生徒の知識欲に十分応える内容で、503人が参加した。(◎) イ・国公立大学・難関私立大学進学希望者対象の講習には、通年で15名の生徒が参加し、学力と進路意識の向上が図れた。(○) ウ・アンケートの回収率は31.4% ・社会人として活躍する卒業生の講演会を実施。在校生との意見交換も行き、進路を現実のものとして考えさせる機会となった。(○) エ・進路希望達成率は93.8% 進路ガイダンスに加えて、個別指導により希望進路を決定させた上で、進路実現のための講習などを徹底し、ほぼ全員が自分の進路に満足できる結果となった。(◎)
3 美術 造形 教育 セン ター 校と して の 役 割	(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う ア 小中学校教員対象実技研修会実施 イ 学外展への積極的出品参加を奨励 ウ 学校の専門施設設備の充実	ア 小・中学校教員を対象にした実技研修会を大学等と連携して実施する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品させ、制作意欲の喚起に資するとともに力量や質の向上につなげていく。 ウ 専門施設設備の維持管理に努め、更新と充実に努める。	ア・参加者数の維持 (H26:116名) イ・出品者数の維持 (高校展250名以上) (芸文祭150名以上) ウ・必要な更新等の調査を参考に優先順を決める。 調査結果に基づき計画的に維持更新を行う。 (校内調査を実施) (更新計画案を策定)	ア・本校の行事と、中学校の行事が重なる時期であるが、125名の参加があり、研修会終了後も質疑応答が続くほど熱心な研修会となった。(○) イ・高校展出品者は255人 芸文祭出品者は206人 強い制作意欲と集中力で、完成度の高い作品ができた。(◎) ウ・短焦点プロジェクターを整備し、プレゼンテーションに活用した。 ・進学者向け実技講習室の空調設備の修理を行い、美術系進学者の学習環境を整えた。(○)